

女性支援に関する民間団体の活動状況

1. 調査概要

調査対象	市が把握する市内で困難な問題を抱える女性支援を行う民間団体
調査方法	(1)アンケート調査 ・令和5年度静岡県実施の「困難な問題を抱える女性への支援に関する民間団体活動状況調査」から、本市分を抽出した。(7団体) なお、令和5年度の県調査を受けていない4団体について、令和6年 10、11 月に本市が追加して調査した分を合わせた。 (2)ヒアリング調査 ・令和6年9から10月にかけて、市内の民間団体(7団体)を訪問し、ヒアリングを実施した。
回答数	11 団体

2. アンケート調査の結果

(1)女性支援に関する主な活動分野

「DV 被害者支援」が 73%で最も多く、次いで「男女共同参画」と「生活困窮」が 55%となっています。

活動分野	実数	割合
DV 被害者支援	8	73%
男女共同参画	6	55%
生活困窮	6	55%
その他	4	36%
性暴力被害者支援	3	27%
若年女性支援	3	27%
外国籍女性支援	2	18%

その他の内容
困難な問題を抱える女性を幅広く支援
DV 加害者教育、DV 被害者母子支援
DV・性暴力以外の暴力の被害女性支援
妊産婦及びその家族への支援

(2)支援対象者が抱えている困難

「貧困・経済的困窮」「夫からの暴力、親兄弟からの性虐待・暴力、性暴力・性被害」、「心身の健康の侵害や障害」が 73%と最も多く、次いで、「就労からの排除やドロップアウト、不安定な就労環境・低賃金」が 64%、「居場所の喪失、社会的孤立」、「家族関係の悪化や家族の崩壊」が 55%と高い割合となっています。

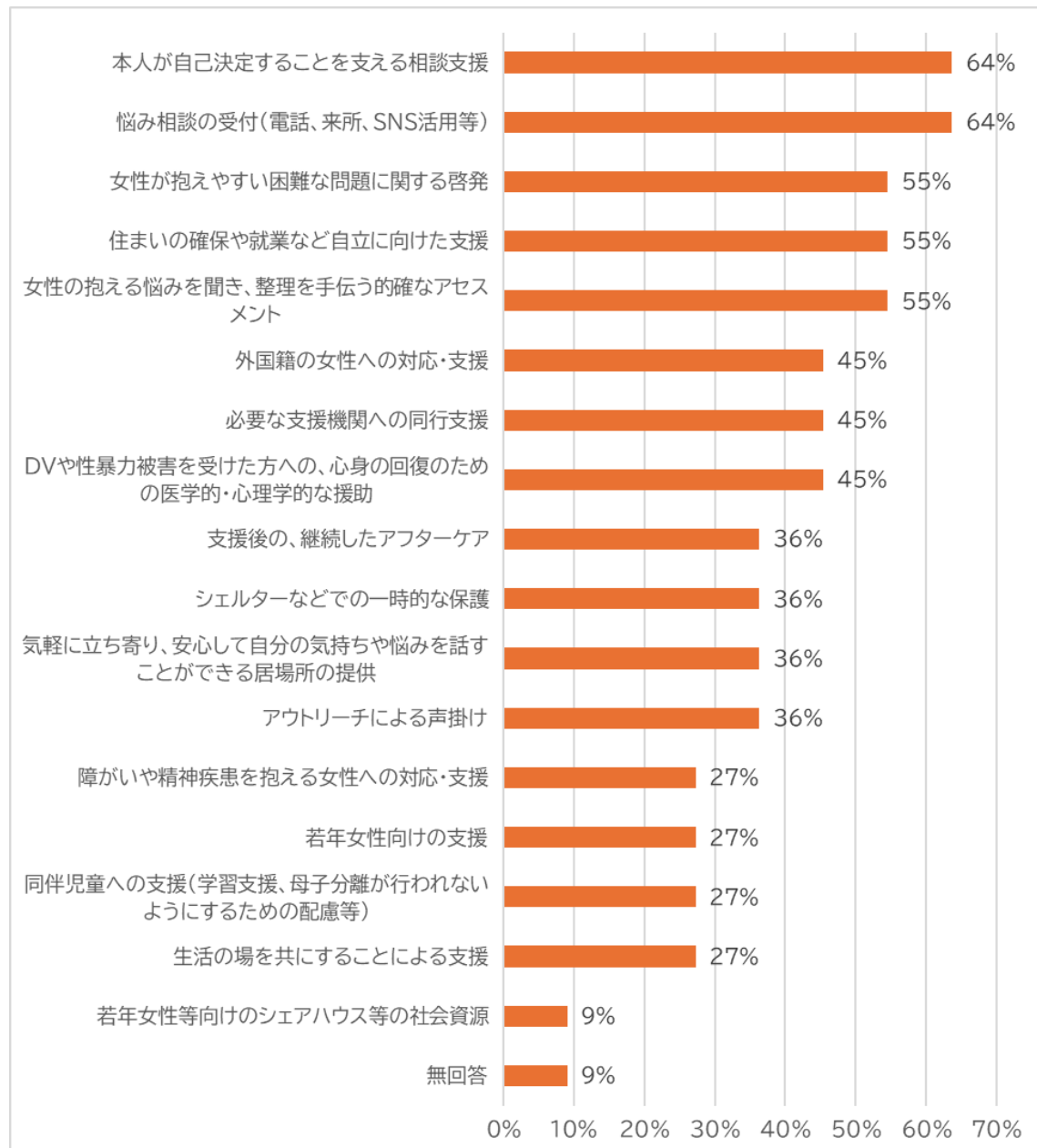
(複数回答)

困難	実数	割合
貧困・経済的困窮	8	73%
夫からの暴力、親や兄弟からの性虐待・暴力、性暴力・性被害	8	73%
心身の健康の侵害や障害－うつ、精神疾患や精神障害、知的障害、発達障害	8	73%
就労からの排除やドロップアウト、不安定な就労環境・低賃金	7	64%
居場所の喪失、社会的孤立	6	55%
家族関係の悪化や家族の崩壊	6	55%
予期せぬ妊娠、中絶とそのトラウマ、孤立した環境での出産と子育て	4	36%
自死念慮、自殺未遂、リストカット・オーバードーズ(自傷行為)	4	36%
性的搾取	3	27%
学校教育からのドロップアウト(いじめ、不登校、ひきこもり、高校中退)	3	27%
その他	2	18%
無回答	1	10%

(3)女性支援の活動内容(現在行っている支援)

「本人が自己決定をすることを支える相談支援」、「悩みの相談受付」が 64%と最も多く、次いで「女性が抱えやすい困難な問題に関する啓発」、「住まいの確保や就業など自立に向けた支援」、「女性の抱える悩みを聞き、整理を手伝う的確なアセスメント」が 55%となっています。

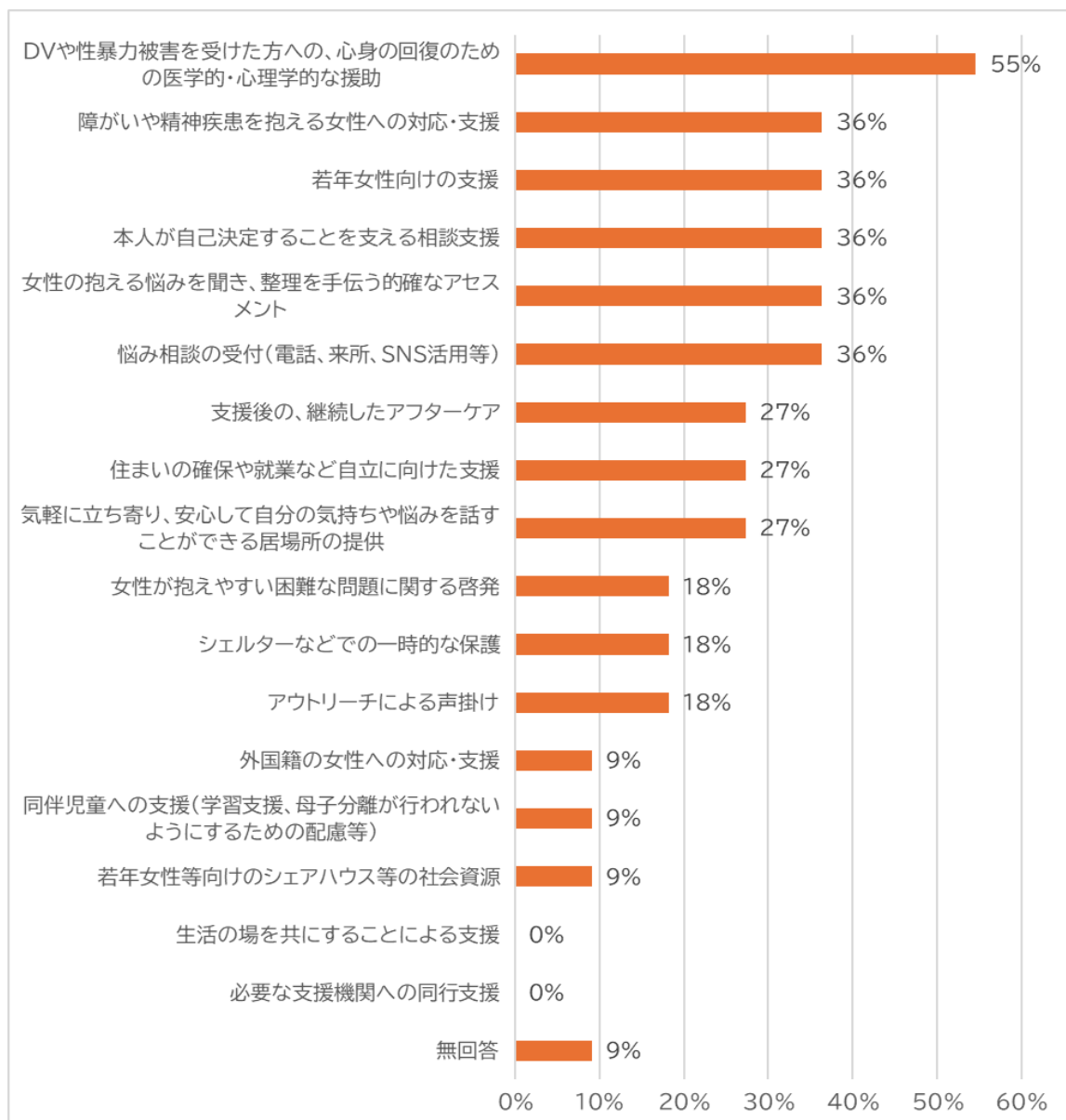
(複数回答)



(4)支援の対象とされている方に対して、今後一層必要と思われる支援

「DV や性暴力被害を受けた方への、心身の回復のための医学的・心理学的な援助」が 55%と最も高く、次いで「障害や精神疾患を抱える女性への対応・支援」、「若年女性向けの支援」、「本人が自己決定することを支える相談支援」、「女性の抱える悩みを聞き、整理を手伝う的確なアセスメント」、「悩み相談の受付」が 36%となっています。

(複数回答、5つまで)



(5)現在支援が行き届いていない、支援が必要な人の困りごとや、必要な支援(自由回答)

- ・自分が困っている、支援が必要だと感じるができないまたは、困っていることを発信できない。みんな同じようなことで悩んでいると感じる機会を作り、自分の大変さを言語化することで受援力を高めること。
- ・公的支援サービスによる支援を拒否する若年女性及び女性への支援
- ・(困りごとが重篤化する前に相談できることが大切なので)相談へのハードルを下げる対策、公的、民間問わず相談できる機関の周知
- ・知識の啓発 (DV とは何か知らないことで気づくのが遅れてしまう)
- ・DV 被害から逃れた後の女性や親子・同伴児への支援
- ・DV 被害から逃れた被害者及び家族への地域定着のための支援
- ・一時保護のハードルが高い。また、一時保護以外の選択肢がない。
- ・性暴力被害者に対する中長期的支援
- ・不登校児を抱えるシングルマザーとその子供の支援

(6)「支援が必要だが行き届いていない」という対象者へ支援を届けていくための方法

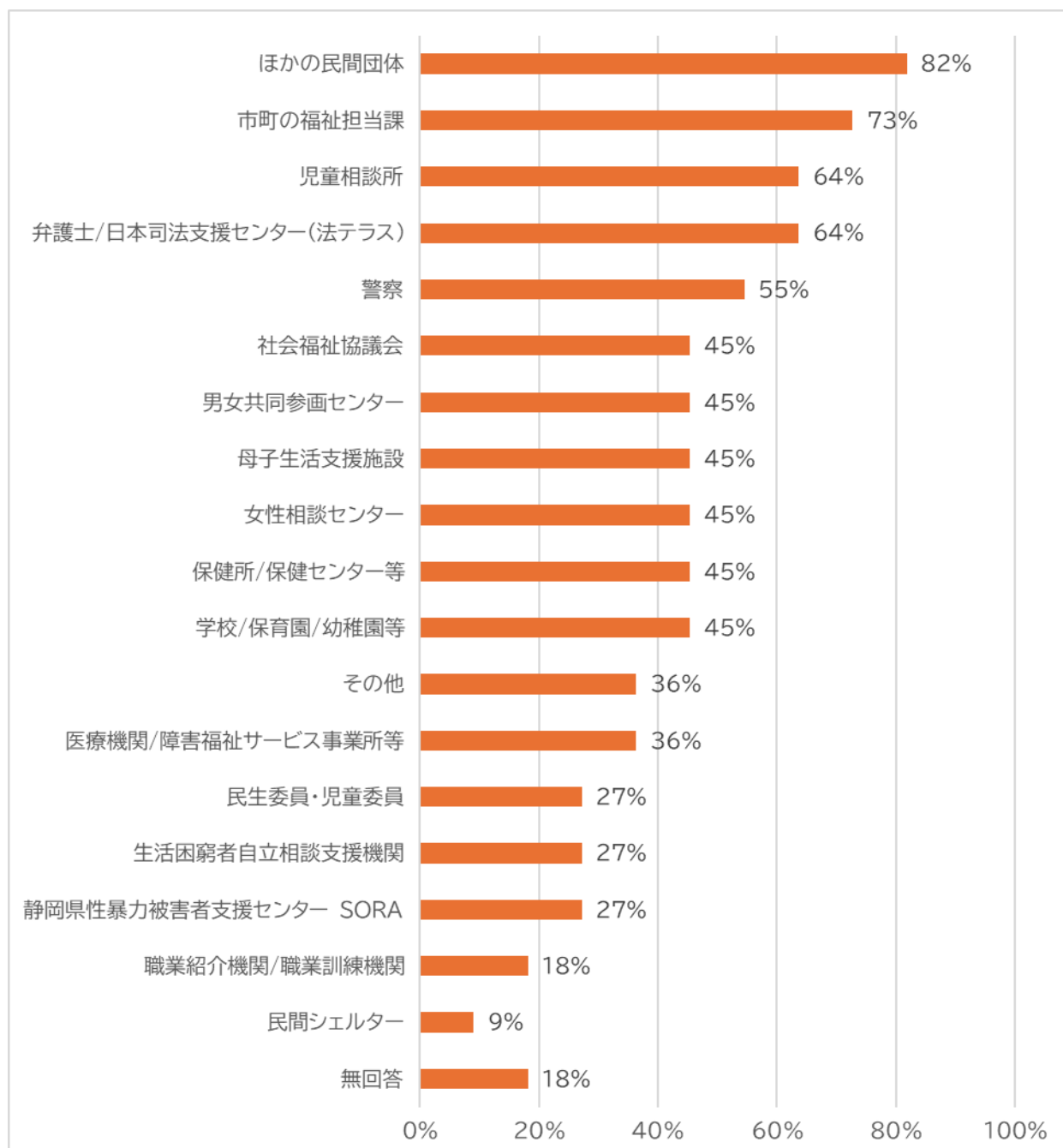
- ・アウトリーチ支援
- ・支援する側とされる側が明確に分かれてしまうと、される側はアプローチされにくい。支援者が対象者と同じ目線にたち、「支援」を色濃く出さずに行う。
- ・スクールソーシャルワーカーとの連携(小・中・高)
- ・24 時間 365 日体制(当事者が SOS をあげやすい時間帯と柔軟な受け入れ体制)
- ・DV 被害を受けた当事者が、地域で安心して自立して暮らすためには、心身のケアと具体的な支援が必要となる。そのためには様々な機関が連携し、チームで対応していくことが大切であり、コーディネーターが必要
- ・若年世代のうちの教育・啓発
- ・ピアサポート(同じような共通項や対等性を持つ人同士が支え合うこと)
- ・自治体の各相談窓口担当や、幼児、児童・生徒に関わる保育士・教員の方が民間の支援団体と連携できる体制をつくり、当事者の困難の解消に必要な支援ネットワークに繋がられるようにする。
- ・支援団体についての周知啓発
- ・ジェンダー視点を持ち、個人の問題ではなく社会の問題として考え、支援する

(7)民間団体の活動内容の変化

10 年前と比較すると、支援対象者の年代や困りごと支援内容の変化について、約8割が「ある」と回答しています。その内容としては、「より複雑で対応困難なケースが増えている」、「SOS を以前よりあげなくなっている」「相談を受けるだけでなく、同行支援やアドボケイト(権利主張が困難な人や子ども、高齢者、障がい者などに変わって権利を主張し、支援する)など直接的な支援を行うようになった」などが挙げられており、悩みごとの変化に応じて、活動内容を対応させている様子が分かります。

(8)他の機関や団体との連携状況

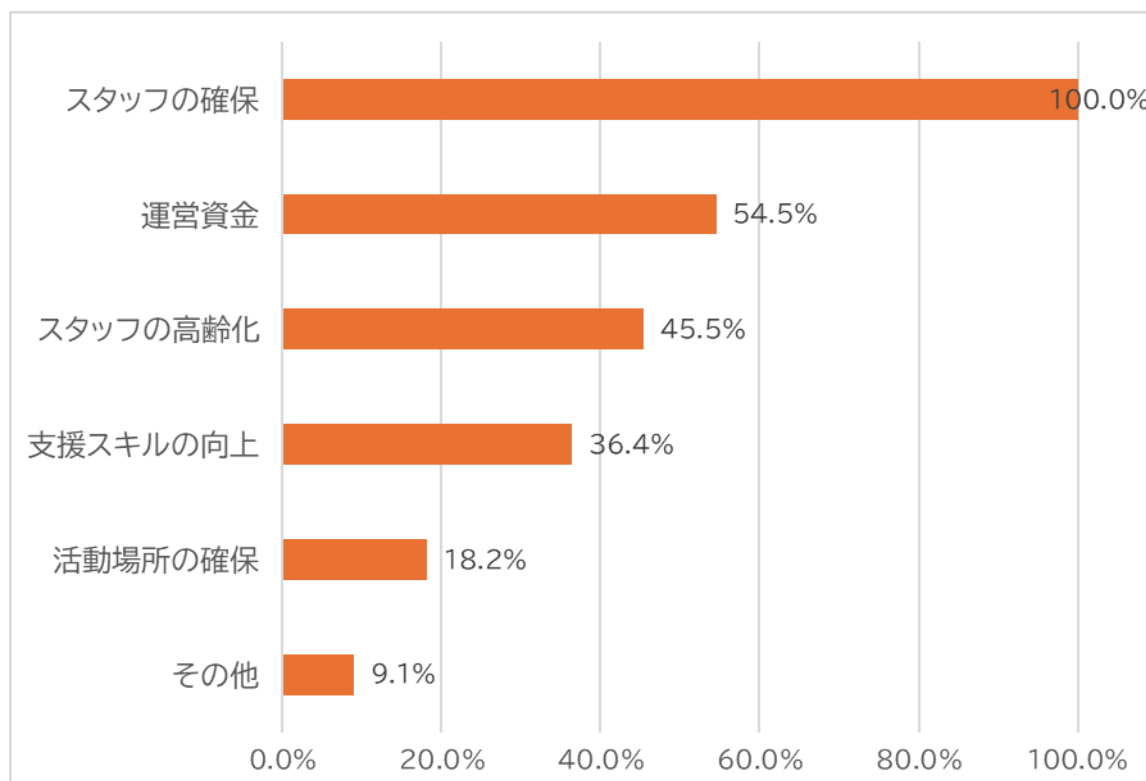
「ほかの民間団体」が82%で最も高く、次いで、「市町の福祉担当課」が73%、「児童相談所」「弁護士/法テラス」が64%となっています。



(9)団体の活動継続の課題

スタッフの確保については、どの団体も課題として挙げておりました。次いで、「運営資金」54.5%、「スタッフの高齢化」45.5%でした。

(3つまで回答)



(10)自由回答

- ・自己決定や自助努力を支える支援が必要。
- ・縦割りの支援ではなく横断的な支援が必要。
- ・なんとなく生きづらさを抱えている層の生きづらさが重篤化する前に、支援につなげることが大切。そのために幅広い入口、接点を広げることでハイリスクに陥る前に見つけやすくなる。
- ・相談・支援機関の支援の枠にあてはまらない人の行き先がないことが大きな問題。中長期的支援、多様な選択肢をどう作っていくかが課題である。
- ・シングル高齢女性の支援が置き去りになっている。

3 ヒアリング調査の結果

- ・福祉の現場の職員にもっとジェンダー平等の視点を入れてもらいたい。
- ・「困難な女性」というイメージもすごくステレオタイプになりがち。潜在的な問題を抱えている人、一見大丈夫そうに見えるが、何かトラブルがあると崖から転がり落ちるような人たちが実はたくさんいるという認識が薄い。「困難な女性」はすべての女性が該当するものだと思う。
- ・女性相談員が、困難な人を支える大変さがある。二次被害(被害者が周囲の対応により、さらに心の傷を深めてしまうこと)を防ぐためにも、女性相談員への研修やスーパービジョンなどの機会は重要。窓口の研修、スキルアップ、スーパーバイザーなどを習慣付けするべき。
- ・認知症など本人が自身の状況の困難さを正確に把握できないケースでの支援が難しい。
- ・行政や関係機関間の連携不足による情報伝達の遅延や食い違いが起きている。
- ・制度が複雑で、また周知不足により当事者の利用が困難になっている。
- ・相談に繋がらない理由は相談先の情報を知らないからだと思う。
- ・窓口に行くというのはハードルが高い。電話をかけるのも勇気がいる。
- ・支援をしていく中で一番困るのが、その人の特性や状況にあった形で、どういったサービスを提供できるか考えていかなければならないこと。
- ・今までは担当者、支援者が個人の頑張りでやっていた感じがある。担当者、支援者がその人を支援するために色んなところで大変な思いをしてきた。
- ・市町の担当課が中心となって支援調整会議を開き、「その人に対してどういう方向性をもって支援していくか」関係する担当者を集めてやっていくのが一番よいと思う。
支援調整会議は女性相談支援員のいる部署が中心となってやらなければならないのではないかな。
- ・支援者はその人を何とかしたいという視点ではなく、自立を支援するという視点を持つ必要がある。
- ・早期発見・早期介入を行うための体制が不十分。
- ・実務経験の少ない職員に対するOJTや研修の機会の充実が必要である。
- ・女性の抱える問題は、DV被害と障害など複数で相互に絡み合っていることが多く、一つの相談機関・支援機関では解決できないことが多い状況であるため、支援団体・支援者同士のネットワークを作る必要がある。
- ・どのように支援が行き届いていないことが分かれば対応できるが、相談につながって初めて足りなかった支援がわかることが多い。
- ・悩みがなく、うまくいっている人の中に入っていくのは難しい。目的をもった場所(高校進学)を作るとおなじような環境・悩みを持った人が集まり居場所となりやすい。